



BENOÎT JACQUOT

LA FILLE SEULE
À TOUT DE SUITE

新文芸坐シネマテーク vol.20
ブノワ・ジャコ特集

2018.02.16 fri
シングル・ガール

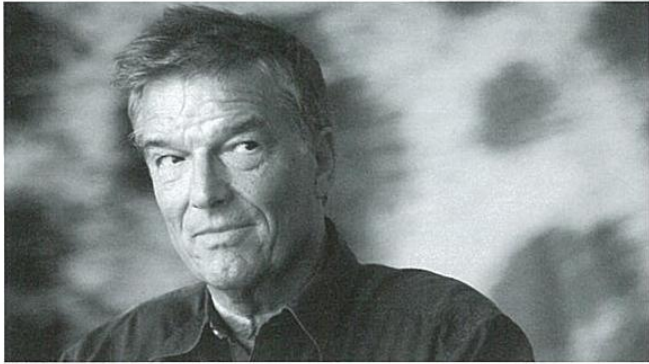
2018.02.23 fri
いつか会える



日仏交流160周年
160^e Anniversaire
des relations
franco-japonaises

新文芸坐

Indie
Tokyo



BENOÎT JACQUOT

シングル・ガール

La fille seule

2.16[金]

1995/フランス/DVD/90分



監督: ブノワ・ジャコ

製作: フィリップ・カルカソヌ

脚本: ブノワ・ジャコ/ジェローム・ボジュール

撮影: キャロリーヌ・シャンプティエ

出演: ヴィルジニー・ルドワイヤン/ブノワ・マジメル/

ドミニク・ヴァラディエ/ヴェラ・プリオル

ある日の早朝、ヴァレリーはボーイフレンドのレミに自分が妊娠したことを告げる。レミは無職の青年だ。彼女は子供を産むと主張し、ふたりは別れるべきか口論する。同じ朝、ヴァレリーはホテルのルームサービスとして働き始める。彼女は、ホテルの宿泊客たちのために朝食を準備し、母親に何度も電話しようとし、そして他のスタッフたちと様々な関係を持つ。当時19歳だったヴィルジニー・ルドワイヤンの演技が絶賛され、彼女の代表作となった。

監督 ブノワ・ジャコ

1947年2月5日、パリ生まれ。

若い頃から映画に熱狂し、17歳にして映画界に入る。

70年代には主にテレビ界で働き、ジャック・ラカンのドキュメンタリーやカフカ、ブランショなどの翻案を手がけた。マルグリット・デュラスの『ナタリー・グランジュ(女の館)』『インディア・ソング』をアシスタントとして手伝った後、1975年に監督デビュー。日本ではドミニク・サンダとジャン＝ピエール・レオーが共演した『肉体と財産』が初公開。その後、『デザンシャンテ』『シングル・ガール』などで少女映画の名匠として名を馳せる。

イザベル・ユベールはじめ、フランス女優がこぞってその作品に出演を希望することでも知られている。

いつか会える

À tout de suite

2.23[金]

2004/フランス/DVD/95分



監督: ブノワ・ジャコ

製作: ジョルジュ・ベナヨン/ラウル・サーダ

脚本: ブノワ・ジャコ/エリザベス・ファンジェ

撮影: キャロリーヌ・シャンプティエ

出演: イジルド・ル・ベスコ/オウアシニ・エンバレク/

ニコラ・ドゥヴォシエル/ エマニュエル・ペルコ

美術学校の学生リリは、ある日カフェで出会った黒人青年に一目惚れした。名前も知らない彼に夢中になったリリは両親と暮らす家に招き一夜を共にする。数日後、青年からリリに電話がかかってくる。銀行強盗をして警官に囲まれている、これが最後かも知れないとのこと。何とか警官隊を振り切った青年は仲間と共にリリの元に転がり込んでくる。リリは青年と行動を共にし、フランスから逃れ出る決意をする。彼らの逃避行は、はじめ順調にも見えたが…

新文芸坐シネマテーク vol.20

ブノワ・ジャコ特集

	開場	開映	
2.16[金]	19:00	19:15	シングル・ガール
2.23[金]	19:00	19:15	いつか会える

各日、映画終了後に映画批評家 大寺眞輔さんによる講義がございます (50~60分程度)

■特別料金

一般 1500円

学生 1400円

前売り・シニア・友の会 1300円

※当日は整理番号順でのご入場となります

※整理番号付き前売券は1/24(水)より当館窓口のみで販売開始

大寺眞輔

映画批評家、早稲田大学・日大芸術学部講師。「キネマ旬報」「文学界」「カイエ・デュ・シネマ・ジャポン」などで映画批評を執筆。著書に「現代映画講義」など。

IndieTokyo主宰。



感動はスクリーンから

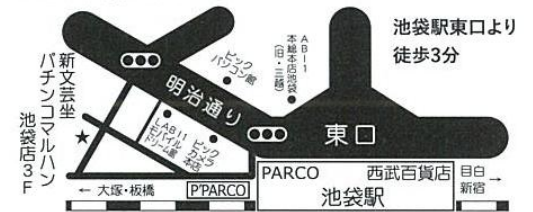
新文芸坐

03-3971-9422

www.shin-bungeiza.com

twitter:shin_bungeiza

東京都豊島区東池袋1-43-5
マルハン池袋ビル3F



共催: IndieTokyo

アンスティチュ・フランセ日本

Indie
Tokyo

INSTITUT
FRANÇAIS
アンスティチュ・フランセ日本
JAPON